

港湾スト4週連続 24GW回避へ 24日正念場

2019年港湾春闘は

21日始業時(午前8時30分)から日曜24時間ストライキが実施された。今春闘でストに突入したのは、22年ぶりの平日ストとなった14-15日の48時間ストを含め4週連続。産別最低賃金の扱いを巡り労使交渉が膠着状態に陥る中、ゴールデンウィーク(GW)連続ストを組合が通告するかどうか

のままだ。

3月末からの日曜反復ストライキを通告・実施している組合側は、すでに14-15日の48時間ストを含め4週連続でストを

実施した。この先は、史上初のGW10連休を見据え、休日扱いとなる今年28日から5月6日までの連続ストを示唆。しかし、17日に開かれた全国

港湾労働組合連合会(全国港湾)

の中央闘争委員会では結論が出ず、同日のGW連続スト通告は見送られた。

日港協が妥協する姿勢を一切見せていない状況で組合が通告した場合、GW連続ストは事実上確定する情勢。こうした背景もあり17日のスト通告が見送られ、今後、きりぎ

りの局面での労使交渉の可能性が探られる見通しだ。

日港協は23日に正副会長が集まり春闘への対応方針を協議・確認する方針。一方で組合側は24日に中央闘争委員会を再度開催することを決めている。現在の情勢では、仮に中央団体交渉が設定される場合、24日しか日程がなく、この日の労使の動きがどうなるかが、GW対応の帰趨を方向付けることになる。